

要 望 書

【平成26年度第1回定例会】

千葉県町村会

生活環境行政の充実強化について

1 岩石採石場における掘下がり採取跡地の埋戻安全基準制定について

千葉県岩石採取計画認可申請書作成要領の中では、埋戻土砂確保計画書を添付することとし、その記載中「有害物質等を搬入しない」と事業者等に誓約させているが、埋戻材の安全基準等がないため地域で不安をかかえている。

採石法では、「岩石の採取に伴う災害を防止し、岩石の採取の健全な発達を図ることによって公共の福祉の増進に寄与する」ことが目的であり、岩石採取跡地の健全な回復利用により、公共の福祉の増進や、環境保全が図れる。

については、埋戻材についての安全基準を制定するよう要望する。

保健福祉行政の充実強化について

1 「総合診療医」の積極的な育成について

地域医療を取り巻く環境は依然として厳しく、中でも「医師不足」の問題は大きな課題と言える。

医師不足は地域的な偏在性のほか、診療科の偏在性もあり、軽度な患者の第三次救急医療機関への集中などが弊害として顕著になっている。

このような状況の解決策の一つとして、患者の急性期医療・慢性期医療・予防医療・健康教育に携わる総合診療医の育成、普及が効果的と考えられることから、今後の保健医療計画見直しにおいて、総合診療医の普及、育成に向け総合診療医の位置づけを行うとともに、総合診療医の導入に向けた国への働きかけなど、県として積極的な施策展開を講じるよう要望する。

2 地方自治体の病院運営に対する医師確保支援について

町立東陽病院では、医師不足が深刻な状況になっており、住民の求める地域医療が行えない状況にあるとともに、病院運営が非常に厳しい状況にある。

医師不足の現状は、抜本的解決がなされないまま深刻な社会問題となっており、閉鎖に追い込まれる診療科や病院だけでなく、地域医療が崩壊する危機的な状況も生じている。

住民の安全と安心を確保するために、地域医療を初めとする医療体制の整備には、何よりもまず安定した医師の確保が必要である。

については、地域医療体制が存続できるよう、地方自治体が運営する病院に対する医師確保支援を講ずるよう要望する。

商工労働行政の充実強化について

1 飲食業の施設（トイレ）の整備に係る県補助金の創設について

白子町は、テニスをはじめとしたスポーツリゾート地として、年間を通して多くの観光客を迎えている地域である。

近年は「発地型」から「着地型」へと観光の形態が変化してきており、各地域がそれぞれの魅力を伝えていくことが重要となっている。地域の魅力は観光資源であることはもちろん、それ以上に必要なものは「おもてなし」の力であり、町では、その受入体制の強化を図るため、観光客の多くが利用する飲食店に着目し、その支援を進めている。

「B1 グランプリ」が盛り上がりを見せているように「食」は地域イメージの大部分を占めており、これを担う地域の飲食店に対するおもてなし向上施策を早急に創設し、より魅力ある観光地を目指したまちづくりの推進が必要である。

については、「がんばろう！千葉」を合言葉に、震災前以上の「観光立県ちば」を確立するため、次の事項の実現について要望する。

- (1) 「観光地魅力アップ整備事業」制度中、多くの観光客等が使用する個人経営の飲食店等が行うトイレの整備についても補助対象とすること。
- (2) 「観光地魅力アップ整備事業」の対象とすることが難しい場合は、地域の「おもてなし」に対するソフト・ハード事業に対する商工振興施策としての補助制度を創設すること。

県土整備行政の充実強化について

(道路)

1 歩道設置等について

歩行者の交通安全を確保するため、次の事項について適切な措置を講ずるよう要望する。

- (1) 酒々井町上本佐倉から上岩橋地先方面に向かう一般県道宗吾酒々井線（旧51号）は、沿道にある酒々井小学校の通学路になっているが、交通量が多いにもかかわらず歩道が無く、狭い路肩を児童が通学している状況であり、「危険な通学路」となっている。
昨今、通学路中の痛ましい事故が多発していることから、これらの状況を改善するため歩道の整備を促進すること。
- (2) 酒々井町墨地先の主要地方道富里酒々井線は、昨年開設した酒々井インターチェンジや酒々井プレミアムアウトレットの影響により交通量が増加していることから、地域住民の安全を図るため歩道未整備区間となっている八街市側から東関東自動車道を跨ぐ古沢橋まで約800メートル区間の歩道の整備を促進すること。
- (3) 国道296号の墨入口交差点は、昨年開設した酒々井インターチェンジや酒々井プレミアムアウトレットへのアクセスとなる交差点であるが、交通量が増加していることから、東酒々井地区からの利用に支障をきたしている。そのため、国道の右折レーンの改良

のほか、接続する主要地方道富里酒々井線の右折レーンの設置を含めた交差点改良を推進すること。

2 地域の活性化のための（仮称）神崎パーキングエリアの設置及び主要幹線道路網の整備について

地域の活性化を図るため、次の事項について適切な措置を講ずるよう要望する。

- (1) 首都圏中央連絡自動車道の神崎インターチェンジは、都心から1時間、県の北の玄関口となり、北関東及び東北方面からの利用者が多く望め、北総地域の拠点となる。

本町では地域活性化の拠点として、圏央道のパーキングエリアに併設する道の駅を核とするハイウェイオアシスを計画しており、平成22年度より敷地の盛土に着手し平成26年度完成にむけ推進しているところである。

については、首都圏中央連絡自動車道の（仮称）神崎パーキングエリアの設置について関係機関等へ強く働きかけること。

- (2) 一般県道郡停車場大須賀線（国道51号から神崎町まで）は、神崎町の住宅団地を通過し、国道51号と356号を結ぶ重要な幹線道路である。

この路線を既に通した国道356号バイパスまで延伸することは、道路網の整備をするうえで必要不可欠であり、さらに用地も大部分が確保されていることから、速やかな工事着手を図ること。

また、市町整備区間である成田市名木地先から神崎町立野地先までは、平成22年度から市道・町道成田神崎線として国庫補助事業を着手しており、社会資本整備交付金を活用し、より事業の促進を図るべく、交付要望額の重点配分について、配慮すること。

また、市町道の完成後には県道に認定し、主要地方道成田下総線の成田市名木地先から国道356号バイパスまでを（仮称）県道成田神崎線として延伸すること。

3 成田国際空港を拠点としたアクセス網整備について

成田国際空港は、年間発着枠を30万回に拡大し、昨年3月にはオープンスカイが実現したことにより、今後も国際拠点空港として更なる飛躍が期待されている。

空港のポテンシャルが増大する一方で、これまで飛躍的に増加してきた旅客数や貨物量を背景に、空港周辺道路への負担も増大し、特に空港東側の地域は、西側の地域に比べインフラ整備が遅れており、空港を拠点としたアクセス網の整備が急務となっている。

については、次の事項について適切な措置を講ずるよう要望する。

- (1) 国道296号の四車線化
- (2) 県道成田小見川鹿島港線の排水歩道整備
- (3) 県道成田松尾線の多古町側への延伸整備
- (4) 空港東側から空港内への進入路の整備
- (5) 首都圏中央連絡自動車道の早期整備促進
- (6) 成田財特法の延長及び新規事業の追加を考慮した「成田国際空港周辺地域整備計画」事業の推進

4 主要地方道飯岡一宮線バイパスの建設促進について

主要地方道飯岡一宮線バイパスは、県が提唱する「観光立県千葉」推進の一翼を担う道路として、首都圏中央連絡自動車道（東金～木更津）の開通と相乗効果をなし、九十九里沿岸の産業はもとより、県東部地域の観光レクリエーションと成田空港方面への交通アクセスの向上に大きく寄与する重要な路線である。

特に片貝地区の（仮称）新九十九里大橋を始め、小松浜地区に架かる橋梁整備及び屋形地区の道路整備により、路線に連続性を持たせることが、早期に効果を発現する上で重要と考えられる。

については、主要地方道飯岡一宮線バイパス全線を早期に完成するよう要望する。

5 一般県道大里小池線の歩道整備について

一般県道大里小池線は、主要地方道成田松尾線に次ぐ芝山町第2の生命線となる路線であるが、歩道については大部分が未整備である。特に危険地域である、小池6地区と浅川地区から国道296号間の一刻も早い歩道整備を要望する。

6 地域高規格道路茂原一宮道路（長生グリーンライン）の整備促進について

地域高規格道路茂原一宮道路（長生グリーンライン）は、長南町から茂原市間の約7.2キロメートルが整備区間となり整備を進め、圏央道の開通に合わせ国道409号と圏央道茂原長南インター間が供用開始となった。しかしながら残りの区間は事業の進捗が遅れており、さらに、茂原・一宮間の約4キロメートルは未だ調査区間であり事業に着手していない。外房地域の活性化を図るためには、本道路の果たす役割は大変重要であり、圏央道と一体となって双方の機能が最大限発揮されることが考えられる。

については、長南・茂原間はもとより、茂原・一宮間を整備区間に格上げし、早期完成を図るよう要望する。

7 主要地方道市原茂原線、刑部バイパスの早期完了について

主要地方道市原茂原線、刑部バイパス整備事業の懸案だった共有地の用地買収が昨年完了し、周辺自治会をはじめとする地元住民は、念願のバイパス区間の工事着手に期待が高まっている。

平成5年の事業開始から既に20年以上が経過しており、一年でも早く供用開始となるよう、本事業に対する来年度予算を重点的に配分するよう要望する。

8 一般県道南総一宮線水沼地先の改良促進について

一般県道南総一宮線の長南町水沼地先は狭隘で、一部の区間、大型車は待避所による交互通行となっている。また、県道と沿道隣接地との高低差が大きいため、見通しが悪く、通行上極めて危険な状況で、平成23年には、崖地の崩壊により、通行止めを余儀なくされた。

この道路は、首都圏中央連絡自動車道の市原鶴舞インターチェンジと茂原長南インターチェンジを結ぶ一般道路として、首都圏中央連絡自動車道の整備効果を地域に波及させる重要な役割を担う道路となる。

については、市原市側は既に整備が完了し、長南町側の改良の用地については、概ね確保はされている路線でもあるので、市原・南郷トンネルを含む道路改良の早期整備を要望する。

9 国道465号及び国道297号の未改良部分の早期整備等について

国道465号及び国道297号の未改良部分について早期整備を要望する。併せて、国道、県道の除草作業等環境整備の更なる充実を要望する。

1 0 一般県道勝浦布施大原線に係る県単道路改良事業（一般リゾート）の早期完成について

一般県道勝浦布施大原線は、国道128号に次ぐ主要道路ともいえる路線であり、いすみ市まで延びている広域農道と御宿町、勝浦市を結ぶ広域性の高い路線ともいえる。

同路線の改良工事は、平成元年に着手され、近隣市町はもとより夏季の渋滞緩和対策としても有益な事業であることから関係機関から早期実現を望まれているにも拘わらず、着手から約20年以上が経過しても、未だ完成の目処がたたないまま現在に至っている。

また、首都圏中央連絡自動車道の一部開通に伴い、外房地域へのアクセスに市原鶴舞インターチェンジや茂原長南インターチェンジの利用者も増加しており、本事業の早期完成は広域的な道路整備計画の目的達成のみならず外房地域における活性創出という点においても大きく期待されている。

については、一日も早い完成を要望するとともに事業の進捗状況や展望について地元への説明周知を要望する。

(河川・海岸)

1 1 二級河川一宮川水系瑞沢川及び長楽寺川改修の早期完成について

河川は、流域に住む人たちに、豊富な水資源や自然環境、水辺空間など、恵みと潤いを供与しているが、反面、台風や豪雨の際は、洪水などの災害とも隣り合わせで、何にもまして尊い人命や財産が脅かされる恐れがある。

二級河川瑞沢川改修の用地確保については完了し、二級河川長楽寺川改修の用地については、概ね確保されていることから、一日も早い安心・安全な地域づくりのため、計画的かつ継続的に事業を推進し、治水安全度を高めるよう要望する。

1 2 九十九里沿岸の津波対策について

津波等の自然災害の防災対策の観点から、想定される津波に対応した土塁の構築及び海岸保安林整備並びに二級河川一宮川の津波遡上対策としての堤防嵩上げの早期完了を要望する。

また、二級河川一宮川河口付近の堆積土砂の撤去についても実施されるよう要望する。

教育行政の充実強化について

1 千葉県立「房総のむら」の拡充について

千葉県立「房総のむら」は、昭和61年4月1日に開館し、その後北側地域の工事が平成4年に完了して以来、体験博物館として観光面でも貴重な施設となっている。

一方、現在の観光は、観光客のニーズが多様化し、人とのふれあいや体験して遊ぶという体験型の人気が高まっており、時代に合致した本施設は、町の期待も大きいところである。

こうした中、成田空港に近い当施設は、県の国際観光の大きな目玉の一つとなる可能性を持っていることは、誰もが認めるどころと考えている。

については、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を迎えるにあたり、魅力ある国際観光スポットとなるよう、訪日外国人の方々に人気がある「武家屋敷の増設」とともに「日本庭園」、「千葉の食事と日本酒が楽しめるレストラン」などを設置し、その施設の規模も1.5倍に拡充するよう要望する。